

学習指導要領に示された本単元に関わる目標及び内容等

1 国語科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

2 知識及び技能

- (1) 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。
 - イ 話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。
 - ウ 文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。
 - エ 第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。
 - オ 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。
 - カ 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。
 - キ 日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。
 - ク 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。
 - ケ 文章を音読したり朗読したりすること。

3 思考力、判断力、表現力

- (1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。
 - イ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。
 - ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。
 - エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。
 - オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。
 - カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。

※本単元に特に関わりが深い指導事項に○を付けています。

第6学年西組 国語科学習指導案

学習指導者 西吉 亮二

1 単元「物語から伝わってきたメッセージについて語り合おう ～『海のいのち』～」について

【互いに磨き合い、学び続ける子供の姿】

物語から伝わってきたメッセージについて語り合うために、言葉による見方・考え方を働かせながら文章を読んで理解したことに基づいて、メッセージとその理由をまとめる。そして、それらを共有し、自分の考えを広げ、さらに同じ作者の他の物語から伝わってきたメッセージについても考え、語り合っていく。

本単元では立松和平の物語を読み、物語から強く伝わってきたことを短い言葉でまとめたメッセージについて数人のグループで語り合い、自分の考えを広げていく座談会を言語活動とする。メッセージは、言葉による見方・考え方を働かせながら文章の内容や構造を捉え、精査・解釈しながら考えたり理解したりしたことを基にまとめる。メッセージとその理由を共有する際、例えば「伝わってきたメッセージは、命のつながりだよ。その理由は、失う命もあるけれど与吉じいさの『千匹に一匹・・・』という言葉に込められた命を守るという思いが次の命につながっていると思ったからだよ」「なるほど、海に生きるものの命って確かにつながりを感じるね。僕は『千匹に一匹・・・』や『海のめぐみだからなあ』の言葉から、命への感謝というメッセージを考えたよ」等と友達との考えの違いを明らかにしたり、「守られる命に着目して命のつながりと考えたのがすてきだね」等と友達の考えのよさを認め合ったりする。その中で、自分のメッセージを支える別の叙述に気付いたり友達の考えを取り入れたりしていくのである。このように友達と考えを共有し、自分の考えが広がっていく経験を積むことで、立松和平の他の物語から伝わってくるメッセージについても進んで考え、友達と共有し、自分の考えを広げていこう。

2 単元計画（総時数9時間）

本単元の最初に試しの座談会を行い、「物語の内容を理解することが難しい」、「メッセージの基となる叙述を見付けることが難しい」等、メッセージをまとめる際の自分の課題を明らかにする。そして、共通教材『海のいのち』で、それらの課題を解決する場を設け、メッセージをまとめる成功経験を積む。その成功経験を最終の座談会で生かせるようにする。

次	学習の流れ及び主な子供の意識
一	<p>① 物語を読んで感じたメッセージについて座談会をしてみよう</p> <p>まず、自分の好きな「いのち」シリーズの中の1冊を読み、メッセージを語り合う試しの座談会を行う。その中で、メッセージをまとめるための手順を知るとともに、自分のつまずきも知る。</p>
	<p>② 立松和平の物語を読んで感じたメッセージについて座談会をする計画を立てよう</p> <p>立松和平の物語を読んで、その物語から伝わってくるメッセージについて座談会をする計画を立てる。</p>
二	<p>③④⑤ 『海のいのち』を読み、太一の成長を捉えよう</p> <p>「メッセージをまとめるためには内容を理解することが大切」という意識を基に登場人物の人物像を想像したり、表現の効果を考えたりしながら物語の全体を読む。その後、共通教材の読みを生かし、「いのち」シリーズから自分が選んだ1冊についても改めて読む。</p>
	<p>⑥ 『海のいのち』から伝わってくるメッセージを考えよう</p> <p>登場人物の生き方や考え方が伝わる叙述や自分が特に印象に残った叙述等から伝わってくることを短い言葉でまとめ、それらを選んだりまとめたりしてメッセージを書く。</p>
	<p>⑦ 『海のいのち』座談会をしよう (本時7/9)</p> <p>『海のいのち』から伝わってきたメッセージについて座談会を行う。その際、自分が考えたメッセージとその理由を友達と共有することで、自分の考えがよりよいものになっていくことに気付いていく。</p>
三	<p>⑧⑨ 自分が選んだ立松和平の「いのち」シリーズを読んで、座談会をしよう</p> <p>自分が選んだ立松和平の物語について人物像を想像したり、物語の全体像を捉えたりする。そして、同じ物語を読んだ友達とメッセージとその理由を共有し、自分の考えを広げる楽しさを感じ、読書が続いていく。</p>

3 本時について

目 標	伝わってきたメッセージとその理由を友達と交流する活動を通して、互いの考えの違いを明らかにしたり互いの考えのよさを認め合ったりし、再度、自分の考えをまとめることができる。
--------	--

	学習活動	子供の意識
課題設定以前	1 学習課題を確認する。 【座談会プラン】	<p>前時は、『海のいのち』から伝わってきたメッセージを考えたよ。</p> <p>今日は、自分がまとめた考えを友達と交流する座談会をするんだね。</p> <p style="text-align: center;">『海のいのち』座談会をして、自分のメッセージをよりよくしよう</p>
課題解決中	2 『海のいのち』を読んで感じたメッセージについて話し合う。 【メッセージボード】	<p>メッセージと一緒にそう考えた理由を伝えることが大切なんだね。</p> <p>「命のつながり」というメッセージが伝わってきたよ。父や与吉じいさのように失う命があるけれど、「千匹に一匹・・・」という言葉に込められた命を守ることの大切さが太一に引き継がれて、海に生きる命がずっとつながっていると思ったよ。</p> <p>『千匹に一匹・・・』という言葉から僕は命を守る大切さということを考えてけど、確かに海への感謝も感じるね。</p> <p>友達と同じ言葉を基にしていたけれど考えたメッセージは少し違っていたよ。友達の考えを聞くとその考えにも納得できたよ。</p> <p>〇〇さんの考えを聞くと、命に感謝しているからこそ命はつながっていくのだと思ったよ。命を守り、感謝するという与吉じいさの教えた太一に気付いたから、メッセージに「感謝」を付け足すよ。</p>
課題解決後	3 自分のメッセージを再考する。	<p>伝わってきたメッセージは、「命への感謝」だよ。父の『海めぐみだからなあ。』や与吉じいさの『千匹に一匹・・・』という言葉や、与吉じいさの死を受け入れる太一の様子等、物語全体に命への感謝を感じる部分がたくさんあると思ったからだよ。</p> <p>父や与吉じいさという失う命と守られてきた命に着目して、命のつながりって考えたところがすてきだね。</p> <p>友達の話を聞いて、自分が気付いていなかった言葉にも気付いたから、より自信がもてたよ。</p> <p>最初の座談会より、自信をもってメッセージを伝えられたよ。</p>
課題解決後	4 本時を振り返る。 【成長ステップ】	

評 価	メッセージについて、互いの考えの違いを明らかにしたり互いの考えのよさを認め合ったりすることで、自分が考えたメッセージを再考し、必要に応じてメッセージを加筆修正している。 【方法：メッセージカード・発言】
--------	--

4 子供の実態とメタ認知を促す働きかけの詳細

<子供の実態>

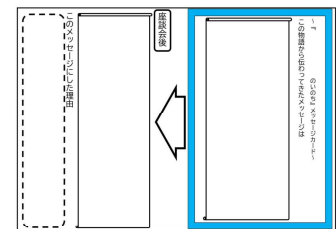
メタ認知に関する実態調査から学習する前に見通しをもって取り組めていないと感じている子供が34名中5名いることが分かった。教科の内容に関する質問紙調査によると、授業中の協働については、ほとんどの子供が友達と話し合ったり、協力して課題を解決したりすることは重要だと感じており、その理由として、「自分が気付いていない考えに気付くことができる」や、「自分の考えに自信をもつことができる」等を挙げている。既に協働することのよさを理解している子供が多くいることが分かった。しかし、中には協働場面で自分の考えを言葉で友達に伝えることが苦手な子供も数名いる。

～課題設定以前～ **学習活動1**

本単元の導入で立てた学習の計画を補助黒板に示しておく。そして、本時の最初に「今日は何をしていきますか」と問いかけ、その理由を詳しく聞いていく中で単元の最終目標やメッセージをまとめる際の自分の課題、前時までにどのようなことを学習してきたのかを説明させる。**【座談会プラン】(3～9時間目)** そうすることで、本時までにはどのようなことができるようになったのか、本時しようとしていたことは何かを思い出せるようにして課題設定の妥当性を感じることができるようにする。

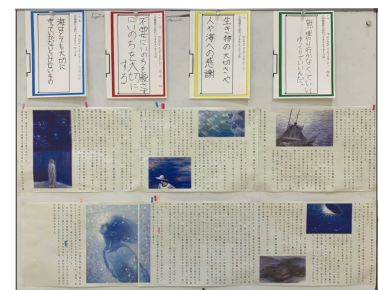
～課題解決中～ **学習活動2**

自分が考えたメッセージとその理由について友達と共有する際には、教材文の全文を拡大して示したボードに一人一人色の違うメッセージカードを集約させる。また、拡大した教材文には自分がメッセージを考える際の理由となった叙述にメッセージカードと同じ色の付箋を貼るようにする。



【メッセージカード】

【メッセージボード】(6～9時間目) そうすることで、自分と友達の考えたメッセージとその理由について、共通点や相違点が一目で分かることに加えて、メッセージは違っても理由となった叙述については同じであったり、同じ叙述を選んでいるのにメッセージが違っていたりすることなどに気づきやすくする。これは、自分のメッセージを再考することにつながるだろう。また、自分の考えを言葉で説明することが苦手な子供も、メッセージをカードに書いて示したり、そう感じた理由となる叙述に付箋を貼ったりすることで、自分の考えやその理由を友達に伝える手助けになり、安心してグループでの座談会に取り組めると考える。座談会を行うグループについては、人間関係に配慮した生活班で行う。



【メッセージボード】

学習活動3

メッセージを再考する際には、必要に応じて加筆修正することを伝える。そして、どうして考えを変えたのか(変えなかったのか)を自分のメッセージカードに記述させる。全体で発表させる際には、メッセージの基となった叙述が同じ子供を意図的に指名する。そして、友達と交流したことでどのように自分の考えが変わったのかを詳しく聞き、同じ叙述を選んでも解釈が様々であることを共通理解できるようにする。

～課題解決後～ **学習活動4**

本時の振り返りでは、二段階の振り返りを行う。まず、本時できたこと・分かったこととその理由の観点について振り返る。その後、**【成長ステップ】(7・9時間目)** 一段階目の振り返りでは本時の学習課題に対する振り返りを行い、本時の中での自分の学びの成果や学習方法のよさに気付く。二段階目の振り返りでは、試しの座談会を行った際に感じていた自分のつまづきが、本時ではどうなったかを振り返る。そうすることで、自分のつまづきが解消されていることに目を向け、単元を通しての自分の成長に気付かせたい。

3 本時について

目 標	伝わってきたメッセージとその理由を友達と交流する活動を通して、互いの考えの違いを明らかにしたり互いの考えのよさを認め合ったりし、再度、自分の考えをまとめることができる。
--------	--

	学習活動	子供の意識
課題設定以前	1 学習課題を確認する。 【座談会プラン】	<p>前時は、自分の「いのち」シリーズのメッセージを考えたよ。</p> <p>今日は、自分がまとめた考えを友達と交流する座談会をするんだね。</p> <p style="text-align: center;">『〇〇のいのち』のメッセージについて座談会をしよう</p>
課題解決中	2 自分が選んだ物語を読んで感じたメッセージについて話し合う。 【メッセージボード】	<p>『田んぼのいのち』</p> <p>メッセージと一緒にそう考えた理由を伝えることが大切なんだね。</p> <p>「命を守る」というメッセージが伝わってきたよ。『負けるつもりは…』や『賢治さんはなんでもはりきって…』という言葉から、一人になっても田んぼの命を守り続けるという強い思いを感じたからだよ。</p> <p>メッセージは「生きるとは挑戦し続けること」だよ。『昔から続いていた…』や『今年もよろしく…』という言葉から、毎年大変な米作りに挑んできて、それが自分の生き方だということを感じたからだよ。</p> <p>『賢治さんは負けるつもりは…』という言葉から僕は、命を守る強い思いと考えたけど、確かに自然に戦いを挑む感じもするね。</p> <p>『賢治さんは何でもはりきって…』には、米作りに対する強い思いが伝わってくるよ。僕のメッセージにもつながるね。</p>
課題解決中	3 自分のメッセージを再考する。	<p>友達と同じ言葉を基にしていたけれど考えたメッセージは少し違っていたよ。友達の考えを聞くとその考えにも納得できたよ。</p> <p>友達と交流したら、自分では気付いていなかった叙述からも自分が考えたメッセージにつながることが分かったよ。</p> <p>〇〇さんの考えを聞くと、田んぼの命を守ることの大変さを強く感じたよ。奥さんが病気になっても、厳しい自然の中でも稲を守る大変さに気付いたからメッセージを「命を守る大変さ」に変えたよ。</p> <p>やっぱり「生きるとは挑戦し続けること」というメッセージだと思ったよ。△△さんのメッセージの理由になっている『賢治さんは何でもはりきって…』にも米作りに対する強い思いがあることに気付いたからだよ。</p>
課題解決後	4 単元全体の振り返りを行う。 【成長ステップ】	<p>最初はどの文章からメッセージをまとめればいいのか迷っていたけれど、できるようになったよ。</p> <p>前よりも友達と同じところや違うところを見つけて質問することができるようになったよ。</p> <p>メッセージを考えながら物語を読んだり、それを友達と交流したりすることって楽しいな。</p>

評 価	<p>メッセージについて、互いの考えの違いを明らかにしたり互いの考えのよさを認め合ったりすることで、自分が考えたメッセージを再考し、必要に応じてメッセージを加筆修正している。</p> <p style="text-align: right;">【方法：メッセージカード・発言】</p>
--------	--

4 子供の実態とメタ認知を促す働きかけの詳細

<子供の実態>

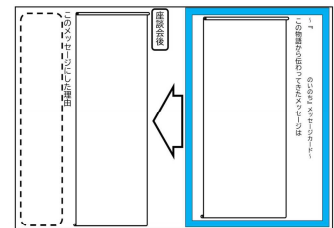
メタ認知に関する実態調査から学習する前に見通しをもって取り組めていないと感じている子供が34名中5名いることが分かった。教科の内容に関する質問紙調査によると、授業中の協働については、ほとんどの子供が友達と話し合ったり、協力して課題を解決したりすることは重要だと感じており、その理由として、「自分が気付いていない考えに気付くことができる」や、「自分の考えに自信をもつことができる」等を挙げている。既に協働することのよさを理解している子供が多くいることが分かった。しかし、中には協働場面で自分の考えを言葉で友達に伝えることが苦手な子供も数名いる。

学習活動1 ～課題設定以前～

本単元の導入で立てた学習の計画を補助黒板に示しておく。そして、本時の最初に「今日は何をしていきますか」と問いかけ、その理由を詳しく聞いていく中で単元の最終目標や、前時までにどのようなことを学習してきたのかを説明させる。**【座談会プラン】(3～9時間目)**そうすることで、本時までどのようなことができるようになったのか、本時しようとしていたことは何かを思い出せるようにして課題設定の妥当性を感じることができるようにする。

学習活動2 ～課題解決中～

座談会は、同じ物語を選んだ子供たちで行う。座談会で自分が考えたメッセージとその理由について友達と共有する際には、教材文の全文を拡大して示したボードに一人一人色の違うメッセージカードを集約させる。また、拡大した教材文には自分がメッセージを考える際の理由となった叙述にメッセージカードと同じ色の付箋を貼るようにする。**【メッセージボード】(6～9時間目)**そうすることで、自分と友達の考えたメッセージとその理由について、共通点や相違点が一目で分かることに加えて、メッセージは違っていても理由となった叙述については同じであったり、同じ叙述を選んでいるのにメッセージが違っていたりすることなどに気づきやすくする。これは、自分のメッセージを再考することにつながるだろう。また、自分の考えを言葉で説明することが苦手な子供も、メッセージをカードに書いて示したり、そう感じた理由となる叙述に付箋を貼ったりすることで、自分の考えやその理由を友達に伝える手助けになり、安心してグループでの座談会に取り組めると考える。



【メッセージカード】



【メッセージボード】

学習活動3 ～課題解決中～

メッセージを再考する際には、必要に応じて加筆修正することを伝える。そして、どうして考えを変えたのか(変えなかったのか)を自分のメッセージカードに記述させる。全体で発表させる際には、再考後のメッセージを全員で見せ合う場を設定する。そして、自分はどのメッセージがよいと思ったかを聞き、そこで選ばれたメッセージを全体で取り上げる。まず、選んだ子供に「どうしてそのメッセージがよいと思ったのか」を問う。次に、取り上げたメッセージについて、そのメッセージを考えた子供に、どうしてそのメッセージを考えたのかを問い、基にした叙述や、その叙述に対する自分の解釈、友達の解釈を聞いて納得したこと等を全体で説明させる。そうすることで、友達と考えを共有することを通して自分の考えを磨くことのよさに気付いていこう。

学習活動4 ～課題解決後～

本時の振り返りでは、試しの座談会で感じたメッセージをまとめる際の自分の課題や、7時間目に行った座談会での自分の課題について、解決できたかということについて振り返る。その際には、ノートに記述しておいた試しの座談会での自分の課題や、『海のいのち』の座談会を終えての自分の課題やよかった点を基にする。**【成長ステップ】(7・9時間目)**そうすることで、自分のつまづきが解消されていることに目を向け、単元の中での自分の成長に気付かせたい。